

危機対応科学情報発信組織準備委員会（第24期・第11回）

議 事 録

1. 会 議 名 危機対応科学情報発信組織準備委員会（第24期・第11回）
2. 日 時 平成30年12月5日（水）15時00分～17時30分
3. 会 場 海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）：高橋、杉田、今田、藤垣、萩原、芳賀

スカイプ（敬称略）：町村（16時～）

欠席者（敬称略）：渡辺、三村

4. 議 題

- （1）第24期・第10回議事録(案)の確認
- （2）これまでの議事録および議論の確認

原案に基づき、修正意見があれば、年内に芳賀委員まで連絡することとなった。

（3）報告書の内容について

高橋委員長より「危機対応科学情報発信組織（仮称）の設立に関する報告書」の原案が提示され、それに基づき、意見交換が行われた。

- 1月末の幹事会で提出し、2～3月に親委員会のメンバー申請、4月から活動を開始する。
- 幹事会に対して出す報告書は、本委員会を立ち上げることの提案となる。
- 取り組む課題

親委員会は小委員会の議論内容を提示する。小委員会（＝分科会）はケーススタディーを行い、年一回の報告をする。親委員会では、分科会の足りないところ吟味し、広い視野で見直す

全部に関わる大きなテーマは、親委員会で検討する。

小委員会でそれぞれの課題を検討し、親委員会へ提出し、親はまとめを行う。

扱う内容は、親委員会ができた時に議論する。
能動的に動く場合と、小委員会から上げてもらう場合と両方ある

- 組織体制

第1部主導の委員会（杉田委員会）を引き継ぐ形で、本委員会へ移行していく。

米田委員会や、既存の委員会（3部：情報セキュリティなど）との連携を図る。

幹事会の付置委員会の下に分科会か会を設置する。
小委員会を分科会とする（旅費も出るので）。

親委員会に上がってきた課題を持ち帰って議論する。

親委員会で法律について議論するか、分科会として法律関係を作るか。分科会の横串を刺す委員会があるか。親委員会がWGなど立ち上げられるので、情報についてなど、親委員会で検討し、本委員会が幹事会に提案する。

分科会にすると、会の成立要件など大変なので、事実上集まって、ボランティア的に委員会をやるしかない。

- ミッション

9月26日の「議論のたたき台」で高橋委員長が提示された資料のミッションを踏襲する。

- 運営

メール審議について、煩雑なので、手続きを簡素化する準備をしている。不着など委員の不公平感を避けるため、メール審議はこれまで不可だったが、リスクを受け入れられれば、メール審議も可能になる。内容が決まった段階で、委員長が投げて、審議をすればいい。分科会を設けておいて、旅費の発生しない方法で検討する。

定期的な勉強会：ケーススタディーに関する、いろいろなテーマについて、全体で勉強会を行う。分科会としては、ケーススタディーで、関わった人が勉強会講師となる。

平常時の運用：半年に一度、報告（レポート）を出す。緊急時に何をするか、データを出しておく。受容できるものを作り、緊急時にベストの行動ができるよう、参考になるレポートを、平常時に出しておく。

レポートの内容は、フォーラムやプレスリリースなどで公表する。平常時の活動をメディアに報告する。

緊急時の運用：重大か、緊急かどうかの事例を、どのように判断するか。緊急時に、通常の委員会に落としていかれるか。緊急時には、平常時の3つの小委員会で、近いところに振るのがいいのではないか。中心は小委員会での専門家のグループで議論が必要。

災害時の情報伝達ができない場合に、どうするか。メンバーに、東京以外の人を入れる、関西と関東など、分けておくのがいい。緊急時は、委員が生き残っているか、サーバーは使えるかななどの事態も、想定しておく必要がある。

- 発信

中国の遺伝子操作での双子誕生や、東京医大での女子学生入試問題など、幹事会声明として出すことがある。関西豪雨の際、米田先生が緊急対応として、声明を出したいと幹事会へ持ってきた。

学術会議のサーバーが十分ではないので、情報委員会からの推薦候補メンバーとの相談で、大学のサーバーを発信に活用する可能性なども出てくるかもしれない。

- 委員会のメンバーについて

各課題5～10人？

自然災害：地震、火山関係

原子力・産業：化学、インフラ関係

医療・健康：疫学、感染症（人、動物）、看護、薬学、野生動物、食品

学協会との連携：課題ごとにどこに聞けばいいか、リストアップしていく。

（４）その他

12月28日に家畜感染症の緊急シンポジウム（アフリカ豚コレラ）が開催される。危機対応の一つの事例として紹介。

[今後のスケジュール]

1月に報告をして2月に親委員会の設置案を出す。

高橋委員長が、報告のたたき台を修正後、再度、メール配信し、確認することとなった。